

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成25年度 第2回CCC国際関係学グループ 運営委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成26年11月18日(土) 11:00～13:00
II. 場所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席者: 林委員、佐渡友委員、多賀委員
(事務局)井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 資料

資料①平成25年度委員会の活動計画

資料②国際関係学教育における教育改善モデルへのアンケート結果

資料③次回までの課題

参考1 高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について(第四次提言)

参考2教授会の権限、4項目に(新聞情報)

資料3 授業に「タブレット革命」(新聞情報)

参考4 FSP実践講座の授業内容と運営の工夫

資料5 私立大学等改革総合支援事業配点区分表

V. 議事

1. アンケートを踏まえた教育改善モデルの実現に向けた課題について

第1回委員会の議論を踏まえて、今後教育改善モデルの実現に向け、能動的学修、参加型学修を実現していくための教育方法、教育の仕方について、委員会として検討を進めることにした。主な意見は以下の通り

- ・アクティブラーニングを現実化するために、今後サイバーFD 研究員の先生方とどのように研究を進めるかを考える必要がある。
- ・ネットの上で意見、情報を共有するのはむずかしいのでサイバーFD 研究員の先生方と対面で研究活動することを考える必要がある。
- ・その場合、集まらない先生はネットで情報共有できるようにする。
- ・動的学修の実施には色々な課題・問題点があり、大きな問題から小さな問題まで先生のレベルで工夫改善できる点、先生方だけではできない点をつぶさに書き出す。
- ・教員同士のコンソーシアムで、一人の教員の授業ではできない多様な視点での授業運営ができないか検討する。
- ・いくつかの大学の先生が授業を連携しあって、ネットの上で授業を役割分担しながらつなぐような参加型、能動型の学修について問題提起する。
- ・3人位の先生で提案した教育改善モデルの実験授業を模索できないか。
- ・大学のカリキュラムでなく、特別授業で工夫してみる。
- ・このような準備を踏まえて、アクティブラーニングを委員会で2回程度検討し、3回目には先生方を呼んで対話形式のFD研究会を実施してはどうか。
- ・理論とかでなく、具体的に大学間の連携をどうやったら良いか、ICT を利用した取り組みを研究する。

2. 次年度の研究課題について

平成26年度は、教育の質的転換に向けた教育改善を促進するため、ICTを活用した能動学修(アクティブ・ラーニング)への取り組み方策等について研究を展開する。

その際、必要に応じて教員有志による対話集会を開催し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとした。